

○ 令和5年度・6年度事業における取組項目（実施した取組、実施できていない取組、課題を記載）

実施内容	東京女子医大病院 (区部)	榊原記念病院 (多摩)	全体の実施状況 ※事務局にて記入
地域の医療・介護関係者への心不全に関する教育	(実施した取組) ・地域の医療・介護関係者を対象に心不全の知識向上に向けた事例検討・研修会「心不全ケア 地域とつながる交流会」を開催(令和5年度3回、令和6年度3回) ・地域の医療・介護関係者向けに心不全療養指導士が企画するWebレクチャーを実施(令和5年度4回、令和6年度8回)	(実施した取組) ・二次医療圏(北多摩南部+連携の多い稲城市多摩市)の訪問看護・介護関係者を対象とした研修会や事例検討会の定期開催	(実施した取組) 東京女子医大病院、榊原記念病院にて、医療・介護関係者を対象とした研修会を定期開催
	(課題) ・区部が対象とすべき地域の医療・介護関係者の全体像の把握(行政との連携) ・地域の医療・介護関係者のニーズをより深く知る。 ・モデル化した「地域の医療・介護関係者への教育」を作成し、広げる	(実施できていない取組) ・研修会で使用したスライドなどホームページを活用した資料提供 ・心不全サポート病院のホームページ(地域の心不全や地域連携関連のイベントを掲載したカレンダー)の認知	(課題) ・地域の医療・介護関係者のニーズをより深く知る。 ・広報手段が限られており、聴講者の職種や範囲がなかなか広がらない。
	(課題) ・広報手段が限られており、聴講者の職種や範囲がなかなか広がらない。 ・動画やスライドなどの研修資材提供に関する著作権など法務的問題の解決が困難		

心不全サポート事業について

○ 令和5年度・6年度事業における取組項目を整理（実施した取組、実施できていない取組、課題を記載）

実施内容	東京女子医大病院 (区部)	榊原記念病院 (多摩)	全体の実施状況 ※事務局にて記入
地域の医療・介護関係者に対する相談支援	<p>(実施した取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報共有ツール(メディカルケアステーション(非公開型SNS)・バイタルリンク)を利用した個々の患者の相談支援 ・一般的な心不全診療、補助人工心臓の相談窓口をメディカルケアステーション内に設置 	<p>(実施した取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・患者さん毎に参加者を限定したメディカルケアステーション(非公開型SNS)による退院前/退院後の相談や情報共有 	<p>(実施した取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・両病院において、ICTを利用した患者の相談支援に取り組んでいる ・東京女子医大病院は、一般的な心不全診療、補助人工心臓の相談窓口を設置
	<p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般的な心不全診療、補助人工心臓診療の相談窓口の利用頻度の低さ(ニーズの把握と告知) 	<p>(実施できていない取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修会参加施設や患者さんの連携を行っている施設を対象としたメディカルケアステーションを用いた相談支援 ・心不全連絡帳を用いたヘルパーさんや訪問看護師、薬剤師と外来担当医間の相談・情報共有やフィードバック 	<p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般的な心不全診療、補助人工心臓診療の相談窓口の利用頻度の低さ ・相談への回答を担当する側のマンパワー確保
	<ul style="list-style-type: none"> ・現在使用している複数の情報共有ツールをどのように使い分けていくか ・女子医大チームの負担を軽減させる仕組みを検討 	<p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別の症例に関する相談なのか一般的な疑問なのか、また急ぎの相談かそうでないかなど相談の内容によって適したモダリティが異なる点 ・相談への回答を担当する側のマンパワー確保 	

心不全サポート事業について

○ 令和5年度・6年度事業における取組項目を整理（実施した取組、実施できていない取組、課題を記載）

実施内容	東京女子医大病院 (区部)	榊原記念病院 (多摩)	全体の実施状況 ※事務局にて記入
デジタル技術を用いた病院と地域の医療・介護関係者間の連携・情報共有の促進	<p>(実施した取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICTを利用して病院と地域の医療・介護関係者において患者情報等を共有 ・ICTを利用した退院前カンファレンスによる地域の医療・介護関係者とのシームレスな診療 	<p>(実施した取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・携帯型心エコーと通信可能なiPadの組み合わせを非循環器内科の訪問診療医に貸与し、使用方法の講習会やリアルタイム画像共有アプリを用いて往診に活用 頂くプロジェクトの運用開始 	<p>(実施した取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICTを利用した地域の医療・介護関係者との患者情報を共有に取り組んでいる。榊原記念病院では、携帯型心エコーと通信可能なiPadの組み合わせを非循環器内科の訪問診療医に貸与、往診に活用
	<p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・退院後に大学病院がいつまでどこまで関与していくべきか ・どの患者にこのシステムの導入が必要かという選別方法 	<p>(実施できていない取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・循環器・非循環器医やコメディカルが参加するセミクローズドの相互相談コミュニティ作り <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・診療情報の拡散防止と迅速な情報共有の両立を考えた場合 オープンなネットワークは構築しづらい 	<p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どの患者にこのシステムの導入が必要かという選別方法 ・診療情報の拡散防止と迅速な情報共有の両立を考えた場合 オープンなネットワークは構築しづらい

心不全サポート事業について

○ 令和5年度・6年度事業における取組項目を整理（実施した取組、実施できていない取組、課題を記載）

実施内容	東京女子医大病院 (区部)	榊原記念病院 (多摩)	全体の実施状況 ※事務局にて記入
<p>その他地域における心不全患者支援体制整備に必要な取組</p>	<p>(実施した取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ作成 ・患者・家族への心不全の啓発を目的としたオンライン教育ツールである「心不全スクール」をWEBで公開ラジオの利用(計5回) 	<p>(実施した取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心不全療養指導士の多摩発信の交流会の立ち上げ ネットワークづくり ・北多摩南北医療圏の急性期病院間の情報交換会定期開催 ・心不全サポート病院のホームページ作成 	<p>(実施した取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2病院がホームページを開設 ・榊原記念病院では、心不全療養指導士のネットワークづくり、北多摩北部・南部の急性期病院の情報交換会開催
	<p>(実施できていない取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「心不全スクール」のコンテンツ拡充 ・心不全入院クリニカルパス(心不全指導、退院後の地域連携を含む)の運用の拡大 ・心不全サポート事業成果に関して学会での報告 	<p>(実施できていない取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・急性期病院同士のネットワークを活かした教育ツールの共有・実装 ・より広範囲・多施設の交流・連携を図る広報活動の拡充 ・心不全連絡帳作成と試用 ・診療所/訪問診療医との勉強会 (連携の中のACPや連絡帳活用方法を中心に) 	<p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人的交流の段階からツールやイベントの共有など協働の段階への移行 ・心不全サポート事業のアウトカムに関して定量的、客観的な評価
	<p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心不全サポート事業のアウトカムに関して定量的、客観的な評価 ・診療報酬を念頭にした取組 	<p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人的交流の段階からツールやイベントの共有など協働の段階への移行 ・手が届いていない地域や職種などの把握と対策 	

心不全サポート事業について

今後の進め方（案）

- 令和5年度からモデル事業として2病院に委託。3年目となるため、事業の成果を取りまとめる必要がある。
- 医療連携推進部会（6月）で、令和5年度・6年度実施内容を踏まえ事業評価と検証を実施、
- 協議会（7月）では、事業評価案を討議、令和8年度以降の事業実施の方向性について議論
- 医療連携推進部会（来年1月）において、令和7年度実施内容を報告

